

『帝国主義』論に学ぶ

第7回

東京ブロック

第七章 資本主義の特殊の段階としての帝国主義

司会…今月は第七章に入ります。レポ

ートは槍崎文雄三多摩県協会会長です。

帝国主義とはなにかということについて、レーニンは五大指標をあげて詳しく説明しています。

その中心の問題は、帝国主義というのは資本主義の必然的な一つの段階であるということですが、これが本当に理解されないと帝国主義時代の私たちの運動がどうあるべきかがはっきりしなくなります。

それでは、槍崎さんお願いします。

槍崎…この章は、基本的にはこれまでの展開を総括し、それを踏まえつつ帝

国主義戦争の必然性にかんするレーニンの基本命題を明らかにしています。まず帝国主義とはなによりも自由競争

がその「対立物」に転化し始めている。独占段階における資本主義であり、

「より高度の制度」(社会主義社会)への過渡期であるとしています。

生産力の発展と生産関係の矛盾を楯に人間社会の歴史は発展してきました。

これと同様に資本主義社会の発展にも段階があります。産業革命を経て資本主義が確立するまでの生成期⇨重商主義段階、資本主義が自立的な発展をとげる成長期⇨自由主義段階、そして国内外に抜き差しならない矛盾を抱え、

行き詰る没落期⇨帝国主義段階がそれです。そして自由主義の時代とは質的に区別される新たな段階として明確に規定したのがレーニンです。

自由主義段階から帝国主義段階へ

では、なぜ1870年代以降の資本主義をそれ以前から区別し、新たな段階として捉える必要があるのでしょうか。

それには独占の発生の歴史からみていきましょう。①1860年～1870年代は自由競争の発展の最高の段階、独占はやつと認められるくらい萌芽にすぎない。②1873年の恐慌以後カルテルが広範に発展した時期ではあるが、また例外である。③1900年～1903年の恐慌により、カル

◆みんなの学習講座

テルが全経済生活の基礎の一つとなる。資本主義は帝国主義に転化した」(37頁)と述ベレーニンは、独占資本主義Ⅱ帝国主義を定式化しています。

レーニンの独占の分析は、マルクスの『資本論』第23章「資本主義的蓄積の一般的法則」のなかの資本の集中・集積に基づいています。「生産の集積による独占の生誕は、総じて、資本主義の発展の現在の一般的かつ根本的な一法則である。」(35頁)と独占への必然性を明らかにしています。

帝国主義とは独占資本主義だ

ここからレーニンが導き出した結論が「帝国主義とは資本主義の独占的段階であるというべきである」(145頁)という規定です。これが帝国主義の本質的規定です。しかし、あまり簡単すぎる規定は、本質的な特徴を導き出すには不充分であることを述べて、この規定を補足する帝国主義時代の簡

単な定義から五つの基本的指標をあげています。これが第一章から第六章まで学んできた内容となつていて、改めてここで簡潔に整理したものです。

最初の第一章〜第三章では独占資本の成立とその国内における発展が、続く第四章〜第六章ではその国際的な展開が述べられています。第七章でこれが総括され、帝国主義について「資本主義の特殊の段階」という規定が与えられます。帝国主義を資本主義の特

殊の「段階」と規定したのは、まさしくレーニンの卓見です。

従つて独占段階を規定するもつとも基本的、中心的な契機は、五つの基本的指標(145頁)のうち(1)生産と資本の集積と独占、(2)金融資本を土台とする金融寡頭制の成立です。この二つの部分は第一章「生産の集積と独占」、第二章「銀行とその新しい役割」、第三章「金融資本と金融寡頭制」において展開されていることを学

レーニンが示した五つの基本的指標

- (一) 経済生活のなかで決定的役割を演じている独占を創りだしたほどに高度の発展段階に達した、生産と資本の集積(本書の第一章部分)
- (二) 銀行資本と産業資本との融合と、この「金融資本」を土台とする金融寡頭制の成立(本書の第二章と第三章部分)
- (三) 商品輸出と区別される資本輸出がとくに重層な意義を獲得すること(本書の第四章部分)
- (四) 国際的な資本家の独占団体が形成されて世界を分割していること(本書の第五章部分)
- (五) 最大の資本主義的諸強国による地球の領土的分割が完了していること(本書の第八章部分)

んできました。

そしてレーニンは帝国主義を次のよう定義しています。「帝国主義とは、独占と金融資本との支配が成立し、資本の輸出が顕著な意義を獲得し、国際トラストによる世界の分割がはじまり、最大の資本主義諸国による地球上の全領土の分割が完了した」というような発展段階的における資本主義である。」(146頁) この定義は、帝国主義についての「純経済的な」規定を行い独占の発生を総括しています。

司会：ここまで前半の独占の発生と五つの基本的指標を学んできましたが、ご質問はありませんか。

渡部：五大指標の(四)・・・世界を分割していること、(五)には・・・領土的分割が完了していること、とあります。同じようなことと思えるのですが？

檜崎：世界市場の分割は、国内市場を

収めた独占団体が、その延長線に国際カルテルを形成し、世界市場分割へ向かうことです。そのことが、諸国による政治的・領土的分割をめぐる対立となり植民地獲得のための帝国主義戦争に転化する必然性が述べられています。

現代資本主義では、「独占資本の多国籍化」がキーワードとなっています。世界貿易の三分の一を多国籍企業の企業内貿易が占めています。多国籍企業は先進国にお互い進出しあうという相互浸透をおこなっており、また途上国にも多国籍企業が併存して競争を展開している。したがって、この「領土的分割」という5つ目の指標が重要な研究課題です。

帝国主義の三つの規定

司会：それではここから後半に入ります。しょう。

檜崎：さらにレーニンは「資本主義のこの段階が資本主義一般に対して持つ

歴史的地位や、あるいは労働運動における二つの基本的傾向と帝国主義との関係を念頭に置くならば、帝国主義はこれと別様に定義できるし、また定義しなければならぬ。」(146頁)と述べています。

レーニンは、この「別様」の定義について第八章の「寄生性と資本主義の腐朽化」では、帝国主義が植民地から得られる超過利潤を使って労働者を分裂させ、労働者のあいだで日和見主義を強め、一時的に労働運動が退廃を生み出すこと。

また「歴史的地位」については、第十章において「帝国主義はその経済的本質からすれば、独占資本主義である。帝国主義の歴史的地位は、すでにこのことよって規定されている。」(199頁)として帝国主義が社会主義の前夜であることを明らかにしています。

こうして別様の定義も併せて考えれば、帝国主義とは、第一に独占資本主

◆みんなの学習講座

義であり、第二に寄生的な腐朽しつつある資本主義であり、第三に死滅しつつある資本主義であるといえます。この二つの規定が、第七章のタイトルの「資本主義の特殊の段階としての帝国主義」の「特殊の段階」が意味する内容です。

このうち最も重要なのは第一の規定です。レーニンは、独占資本主義を帝国主義の土台であり、本質とみたらからず。

帝国主義は資本主義の最後の段階
「資本主義一般の基本的諸属性」のうち、経済的に最も基本的なものは自由競争であり「対立物」が独占です。しかし独占は自由競争を完全に排除することができず「自由競争のうえに、またこれとらんで存在し、このことによつて一連のとくに鋭くてはげしい矛盾、軋轢（あつれき）、紛争をうみだす。」（145頁）のです。ここに帝国

主義の過度的性格があります。帝国主義の後に、資本主義の新たな段階があるわけではありません。帝国主義は資本主義の発展の最高にして最後の段階なのです。

レーニンが「段階」という言葉で表現したのは、それまでの自由主義的資本主義とは、その基本属性においてすっかり変わってしまったということです。この点を明らかにするためにレーニンは、カウツキーの規定を取り上げます。カウツキーの誤りの根本は、「帝国主義は高度に発展した産業資本の一産物である」（148頁）とし、「帝国主義をそれ以前の自由主義の単なる延長線上でとらえている」ことです。

カウツキーの誤った理論

ここからはカウツキーの主張を簡単にみていきましょう。

カウツキーは、1914年に「帝国主義とは、経済的政策をある『局面』

または段階と解すべきではなく、一つの政策、すなわち金融資本によつて『好んでもちいられる』一定の政策、と解されなければならない。帝国主義を『近代資本主義』と『同一視』してはならない。」（147頁）と声明しました。

この主張の誤りは「帝国主義の政策をその経済から切り離し、併合を金融資本の『好んでもちいる』政策であると説明し、そしてその政策を、おなじ金融資本の基礎のうえで可能であろうという他のブルジョア的政策を対置している点である。」（151頁）とレーニンは批判しています。

さらにカウツキーの重要な主張は、『純経済的見地からすれば、資本主義が、なお一つの新しい段階を、すなわちカルテルの政策が対外政策へ移されるということ、すなわち超帝国主義の段階を通過することは、ありえないことではない』。この段階は、す

なわち、全世界の帝国主義の闘争の段階ではなく、その合同の段階、資本主義のもとでの戦争の廃止の段階、『国際的に結合した金融資本による世界の共同搾取』の段階である」（152頁）という超帝国主義論です。つまり独占の発達は一つの世界的独占に、一つの世界的トラストに向かってすすみ、帝国主義が戦争を廃止し、国際的に結合した金融資本による世界の合同搾取の段階がおとずれ、資本主義世界の平和的發展が可能になると主張したのです。

レーニンは、この超帝国主義論に対する根本的な批判は第九章にゆずります。ここでは、生きた現実には「経済的および政治的諸条件のおどろくべき多様性、種々の国の発展速度その他における極端な不均衡、帝国主義的諸国家のあいだの気ちがいがいじみた闘争」（156頁）、つまり金融資本の支配が世界経済内部の不均衡性を強め、国際平和を不断に脅かしている現実から目を

そらせるものであり、カウツキーの超帝国主義論は「死んだ抽象」であると批判しています。その現実とは、特に高度に発達した三天資本主義国、イギリス、ドイツ、アメリカの膨張速度と、それぞれが領有している植民地の大きさとのあいだの、いちじるしい不均衡があり、そして、この不均衡の除去をめぐつて、これら列強間の闘争がますます激化するのであつて、とうてい「超帝国主義」の段階に向かいつつあるとはいえない現実です。

なぜ、戦争は起きるのか？

かくして「資本主義の基礎のうえでは、一方における生産力の発展および資本の蓄積と、他方における植民地および金融資本『勢力範囲』の分割とのあいだの不均衡を除去するのに、戦争以外にどのような手段がありうるだろうか？」（160頁）20世紀初頭の現実を見る限り、それは戦争以外にない

これがレーニンの結論です。

「独占は、自由競争から発生しながらも、自由競争を排除せず、自由競争のうえに、またこれとならんで存在し、このことによつて、一連のとくに鋭くてはげしい矛盾、軋轢、紛争をうみだす。」（144頁）ことの帰結が、帝国主義戦争です。

二度にわたる世界戦争は、資本主義を打倒し、これに代わる新たな社会を創ろうという運動を盛り上げることに なります。実際に第一次世界大戦の渦中に、レーニンは「戦争を内乱へ転化せよ！」のスローガンのもと、ロシアの労働者・農民・兵士に決起を促し世界で初めて社会主義革命を成し遂げました。

日露戦争を契機に日本独占が成立
司会：槍崎さん、報告ありがとうございます
いました。帝国主義の本質は「独占」ということがはっきりしたと思います。

◆みんなの学習講座

〈日本資本主義の発生から帝国主義へ〉

- 1868(明治01)年 大政奉還⇒明治維新(廃藩置県 1871年、地租改正 1873年)
 1871~73年 岩倉使節団107名が欧米に出かける
 1876(明治09)年 秩禄処分
 1876(明治09)年 国立銀行条例改正(地方国立銀行をつくらせる)
 1879(明治12)年 163国立銀行(地方の有力地主、商人も競って設立)
 1882(明治15)年 日本銀行創設
 1886(明治19)年 銀一(兌換銀行券)1917年兌換停止
 1889(明治22)年 大日本帝国憲法発布
 1894~95年 日清戦争(戦費2億円)朝鮮市場を手中、蘇州、漢口開港と揚子江航路獲得
 1897(明治30)年 金本位制度・国際市場
 1904~05年 日露戦争(戦費17億円)満州を支配し独占的地位を獲得
 1904(明治37)年 煙草専売法・葉たばこ専売 1898年・1905年塩専売
 1906(明治39)年 鉄道国有法

どなたか、ご質問などをお願いします。
 宮田…遅れて出発した日本資本主義は、いつ頃、独占が形成され帝国主義の仲間入りしたんでしょうか？

檜崎…日本では、日露戦争直後の1907年、初めての恐慌が発生しました。この恐慌は慢性的不況となり第一次世界大戦勃発の翌年まで続きました。この長期不況の中で独占がつくられ、戦争による軍需景気の中で、急速に成長し、第一次世界大戦に参戦することにより、ようやく帝国主義の世界体制に組み入れられることになったのです。

宮田…そうすると明治維新が1868年だから、わずか40年で世界の資本主義国と肩を並べるようになったのですね、その原動力は何ですか？

檜崎…明治新政府は、旧薩摩・長州・土佐・肥後藩の下級武士団が政権の中枢を担うことになりました。かれらのなすべきことは、天皇制の確立と資本主義の早急な育成でした。その中心人物、大久保利通は欧米の文物、制度を目のあたりに見て、日本の経済、軍事、技術力がいかに遅れているかを知り、欧米の視察から帰国後ただちに、殖産

興業、富国強兵を国是として進めることを決意しました。そして1872年、養蚕、製糸業の官営富岡工場設立。農業部門では1876年札幌農学校設立。重工業では、赤羽製作所、兵庫・長崎造船所、釜石鉱山・製鋼所など官営工場が次々につくられました。これらの工場などの経営が軌道にのるとほとんど民間に払い下げられました。

無償に近い値段で払い下げを受けたのは三井、三菱、住友、安田などの政商です。彼らが第一次世界大戦ころまでに財閥を作り、日本経済を手中におさめ、政治をも支配するまでに急成長したのです。日本の財閥は特殊な構造をもち軍部との結合を容易にし、その後の侵略戦争の原動力になったのです。

司会…ありがとうございます。次回のは、第8章「寄生性と資本主義の腐朽化」を東部県協の島田実事務局長がレポートします。ご期待ください。